

# 伐採木の無償提供を通じた地域住民との協働（Win Win）について

高橋 則充<sup>1</sup>・山岸 裕子<sup>2</sup>・伊藤 大地<sup>2</sup>

<sup>1</sup>阿賀野川河川事務所 保全対策官 （〒956-0032 新潟市秋葉区南町14番28号）

<sup>2</sup>阿賀野川河川事務所 占用調整課 （〒956-0032 新潟市秋葉区南町14番28号）

阿賀野川河川事務所では、河川内の樹木伐採により発生した伐採木の運搬・処分費のコスト削減に向けて、地域住民との協働に焦点を当てて、2022年度に伐採木の無償提供を行った。本論文では、この取り組みの経緯とその効果、今後の課題について紹介する。

キーワード 樹木伐採, 地域住民, 協働

## 1. はじめに

阿賀野川は栃木・福島県境の荒海山にその源を発し、福島県会津地方を経て新潟県下越地方を流れ、日本海に注ぐ流域面積7,710km<sup>2</sup>、幹川流路延長210kmの一級河川である。阿賀野川河川事務所（以下「当事務所」という。）は阿賀野市小松にある阿賀野川頭首工より河口までの34.6kmと支川早出川4.6km合計39.2kmの改修・管理を行っている。

当事務所の管内では、滔々たる大河の流れに代表される自然豊かな河川環境と河川景観が広がり、公園や緑地（運動場）では、休日毎に各種のイベントやスポーツ大会などが開催され、にぎわいが見られている。特に夏になると河川敷を利用した、花火大会が開催されるなど、例年多くの方が河川空間に集い、人々に親しまれている。

しかし、豊かな河川環境が広がり、住民・行政など水辺に関わる人々が増えてきている一方で、近年、当事務所管内においても2011年7月30日の新潟・福島豪雨や2019年10月の台風19号など大きな出水が発生している。

いつ何時起こるか分からない洪水等の災害に対応し、限られた予算、人員の中で適切な河川の維持管理を実施していくには、地域住民の協力が不可欠となっている。

当事務所では、流下能力回復を目的として、2022年度に阿賀野川にて樹木伐採を施工した。本稿では、樹木伐採に伴い発生した伐採木の無償提供を通じた地域住民との協働を紹介するものである。

## 2. 取り組みに至る経緯

### (1) 河川内樹木伐採の目的

河川内の樹木は、動植物の生息・生育・繁殖環境や河川景観を形成するなど、多様な機能を有している。その一方で、河川内の樹木は洪水時に流下能力の低下、さらには倒れた樹木が流木となり堤防・橋梁等の施設が損傷する恐れもある。また、河川巡視の際に視界を遮られることで、河川管理上の支障となったり、不法投棄の温床ともなりうるといった弊害をはらんでいる。

このため、こうした危険を未然に防ぐことを目的として、河川環境保全に配慮しつつ、樹木伐採が行われている。

### (2) 事務所従前の取り組み

当事務所では公募伐採（応募者自ら伐採し搬出する）により処分費等を削減する取り組みを推進してきた。しかし、応募者の方から車への積み込み作業やチェーンソー伐採等を補助する作業員がいないことを懸念する声を多くいただいた他、河川管理者としても、公募伐採に係る河川法第25条の審査、伐採箇所の選定・区画割りなど負担が大きいという課題があった。そこで、無償提供を行うことで公募伐採に係る課題を解決するとともに、地域住民の関心を高めてもらうための工夫を行った。

### 3. 伐採木の無償提供の流れ

本稿における「無償提供」とは、伐採した樹木を搬出・利用していただける方を一般に公募し、無償で提供する取り組みのことである。取り組みの流れを図-1に示す。

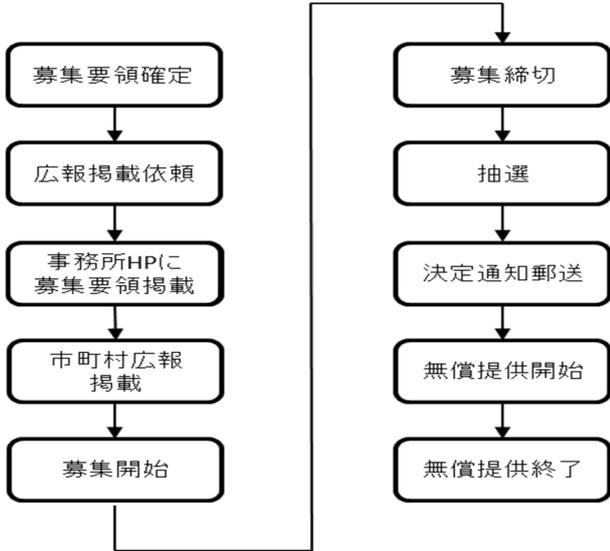


図-1 伐採木の無償提供の流れ

#### (1) 広報手法

当事務所HPに掲載するだけでなく、多数の方が閲覧する関係市町村の広報誌(図-2)にも掲載していただき、応募人数の拡大を図った。

図-2 広報あがの「お知らせ版」令和5年2月15日号

#### (2) 公募内容

##### a) 応募資格

応募資格については、表-1に示すとおり、地域住民への還元のため、伐採木提供場所ごとの募集対象地域に在住の方で、伐採木を自家消費される方に限定した。なお、同一世帯からの応募は1件のみとした。

表-1 応募資格

[提供場所]	[募集対象地域]
・阿賀野市分田地先	----- 阿賀野市在住の方
・新潟市秋葉区六郷地先	--- 新潟市秋葉区在住の方

##### b) 応募方法

所定の応募様式に必要事項を記載し、郵送・E-mail・FAX・持参のいずれかの方法により提出可能とした。応募様式には、名前・住所・連絡先の基本事項以外に、引き渡し希望場所の選択、応募対象地域の再確認及び、提供後の樹木の用途を記載し、提出していただいた。

所定の応募様式以外での応募も複数あったが、応募者の気持ちを考慮して、応募に必要な情報が記載してある場合は、幅広く受け付けた。

##### c) 当選者の決定方法

抽選については、事務所長・副所長の3名(写真-1)が抽選くじにより、厳正・公平に応募者全員に当選順位をつけた。

応募者が提供可能量を上回ることが予想されるため、上位者から順に決定通知書(図-3)を発行することとした。



写真-1 抽選の様子

図-3 決定通知書

決定通知書の発送と並行して、当選者の運搬車等の積載量を考慮した提供量の再計算を行ったところ、予定している総提供量に差が確認され、当選者追加の事態が生じた。

しかし、抽選時に当選順位を付けていたことで、再度抽選する必要がなく、次位者への連絡を円滑に行うことができた。

**d) 受け取り方法**

指定期間内（平日8:30～17:00）に現地での引き渡しを行った。（写真-2）引き渡し日時については、当選者から立会担当者へ決定通知書に記載の整理番号、氏名を告げていただくことで希望日時の調整を図り、確定することで、立会担当者の下で現地での積み込み作業等の対応を可能にした。



写真-2 無償提供の様子

**4. 実施結果とその効果**

**(1) 応募結果**

応募結果は、以下(図-4, 図-5, 表-2)に示すとおりとなった。

当事務所HP、関係市町村広報誌への投稿に加え、新潟通信（ガタ子さん）がSNSで伐採木の無償提供の情報を取り上げるなど反響が高かったこともあり、応募総数162名と大変多くの方から応募があった。

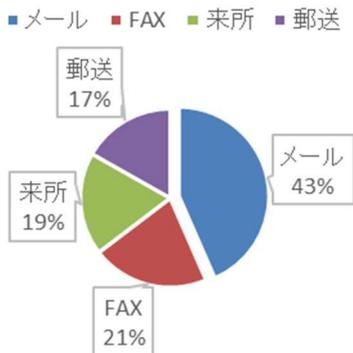


図-4 申込方法

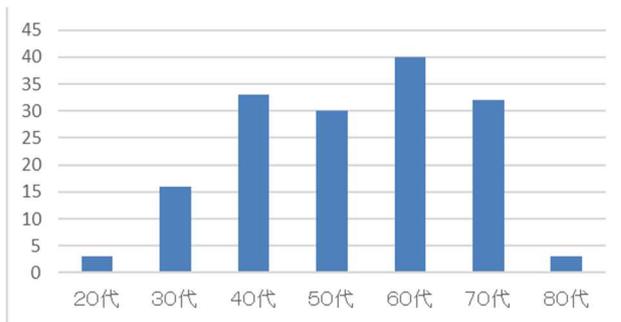


図-5 年代別応募人数

表-2 応募者数

	分田地先	六郷地先	合計
応募総数	63名	99名	162名
決定者数	63名	72名	135名
辞退者数	1名	12名	13名
実提供数	62名	60名	122名

**(2) 事業者側の「Win」**

当事務所では、地域住民の協力により伐採木を最大限処分することができ、その運搬・処分に係る費用の削減に繋がった。（図-6）

また、河川管理者が行っている伐採事業に関心を持ってもらい、河川行政への理解を深めてもらう一助となった。

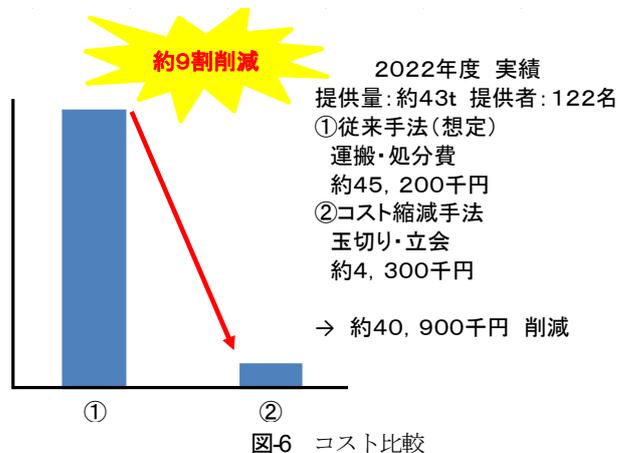


図-6 コスト比較

**(3) 地域住民側の「Win」**

一方、地域住民においては、伐採木を薪ストーブ・キノコ栽培等に使用するなど有効活用を図っていただけた。

また、提供日が平日のみであったにも関わらず、多くの方に取りに来ていただき、中には有給休暇を取得してまで取りに来られる熱心な方もいて驚きであった。

このように、地域住民の協力による無償提供は、コスト削減により他の河川管理に係る費用に予算を活用できることから、結果として地域住民の方々と協働して河川管理を行えたものであったと言える。

## 5. 今後の課題と改善点について

### (1) 地域住民の声

地域住民の方からは、伐採木提供日に休日も加えてくれないかと言う声も多くいただいた。当事務所としても応募者の増加、辞退者の減少の目的から休日も提供日に加える可能性を検討する。

また、募集期間が長く「決定通知書はまだですか」との問い合わせも多かったため、期間も含め募集方法の再検討を考えていきたい。

### (2) 改善点

#### a) さらに阿賀野川に興味を持っていただくために

伐採木の無償提供時に、樹木伐採の目的や、無償提供のメリット、当事務所が行っている日頃の河川管理を紹介する資料を配付するなど、河川行政に理解を深めてもらうと同時に、地域住民の率直な感想や求めているものを把握するため、アンケートを実施するとより理解が深まると考える。

#### b) 提供だけで終わりにしない

当事務所では伐採木を無償提供するなかで地域住民との協働を達成できたと考えている一方、地域住民から見ると伐採木を受領したとしか思われていないことも考えられる。

協働とは、対等な立場で協力して共に働くことであり、成果が分からなければ達成感が沸いてこない。今後、当事務所HP等で無償提供の結果と地域住民の方々への感謝の一文を加えた事後報告を掲載し、河川管理者、地域住民双方の働きによる成果であったことを周知したい。

## 6. まとめ

今回の伐採木の無償提供を通じて、河川管理者側はコスト削減の達成、地域住民側は伐採木を受領ができ、お互いの協働により「Win Win」の取り組みとなった一方で、地域住民の方々が河川行政に対する理解への第一歩を踏み出していただけただけが一番の成果であったと思う。

地域住民の協働無しでは成り立たない本取り組みを続けていくため、今回得られた課題の改善、地域住民の方々からいただいた声に寄り添いながら協働を進めていきたい。

**謝辞：**本取り組みの実施及び本論文の作成にあたり、ご協力頂いた関係各位に深く御礼申し上げます。